

# 第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 10010340

政策目標	4 つるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 維持事業であるため、毎年実施する事業である。
基本施策	19 消防・救急・防災体制の強化	事業優先度	B	
単位施策	1 災害予防対策・危機管理対策の強化	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	町内河川小工事事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	10 建設水道課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	河川の応急補修	ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業	
事業目標	適切な補修	関係例規・法令名		
住民参加	無	関係個別計画名		

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容
計 画 内 容	○町内河川の応急的な補修等工事	護岸補修外 1式	護岸補修外 1式	護岸補修外 1式	護岸補修外 1式	護岸補修外 1式
	事業費(千円)	10,800	1,800	2,000	2,100	2,300
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
実績事業費	事業費(千円)	11,571	1,764	1,999	2,035	5,773
関 連 事 項	特定財源の名称					
	【評価・実績】	(実施内容等) 護岸補修外 1式 (オホムシュベツ川、上沢木無名川、 ホソコツナイ川)	(実施内容等) 護岸補修外 1式 (元稲府川、御西川)	(実施内容等) 護岸補修外 1式 (元沢木川、大川、元稲府川)	(実施内容等) 護岸補修外 1式 (元沢木川、上雄武無名川、 元稲府川)	(実施内容等)
		※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値 適切な補修	適切な補修	適切な補修	適切な補修	適切な補修
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率 98%	100%	97%	251%	0%
	全体達成率 16%	35%	54%	107%	107%	
	備考欄					

事業名	町内河川小工事業	評価者	管理職 職氏名	建設水道課長	田原慎也
		評価者	作成者 職氏名	土木管理係	大庭 悟

様式1  
平成28年度実施  
平成29年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	河川	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	補修河川数
【抱える課題やニーズは】	河川未補修による災害の拡大	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	町内河川の応急補修等による現況復元	① 補修河川数/補修河川数	目標年度 平成28年度
【その結果、どのような成果を 実現したいか】 ※成果=目的	災害からの未然防止		目標値 3河川
			実績値 3河川
			達成度 100.0%
		②	目標年度 平成28年度
			目標値
			実績値
			達成度 #DIV/0!%
【内容(どのような手段で何を 行ったか)】	①民間業者による工事の実施	入札により、民間業者に工事を発注し、元沢木川、上雄武地区無名川については土砂除去、元稲府川については、倒木撤去を実施した。	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	町内河川の応急的な工事の実施や事前に態勢整備を実施することで、決壊等の拡大を未然に防ぐことは、町が担う必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	応急的な工事の実施や事前に態勢整備を実施したことにより、決壊等の拡大を未然に防ぐことができた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
課題あり	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	決壊等の拡大を未然に防止したことは、事業費の抑制となり、効率的であると判断する。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	町内河川の応急的な工事により、災害を未然に防止できたことは、公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
公平でない	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等  
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等  
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等  
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
災害の未然防止のため、応急的な補修等の工事ができることは、今後も応急に対し必要な事業であると判断する。		

今後の展開方向  
(Action)

継続/現状維持		
災害の未然防止のために、応急的な補修等の工事に対応することは、必要不可欠であることから、継続、現状維持が適当であると判断する。		

※展開方向の区分  
○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更  
○終了 ○休止 ○廃止